

第1回学校運営協議会 議事録

日 時：令和4年6月21日(火) 15:30～

場 所：和歌山工業高等学校 大会議室

出席者

(学校運営協議会委員)

田中 一壽 氏 (和歌山商工会議所専務理事)

梅田 千景 氏 (和島興産株式会社代表取締役)

村田 頼信 氏 (和歌山大学システム工学部システム工学科教授)

田中 資則 氏 (元紀伊コスモス支援学校校長)

和田 通尚 氏 (海南市立亀川中学校長)

高垣 晴夫 氏 (本校同窓会副会長)

西村 保展 氏 (本校同窓会副会長)

松本 泰幸 (本校校長)

(学校出席者)

宮本 裕司 (全日制教頭) 阪中 潤 (全日制教頭) 小島 穰 (地域連携担当) 嶋田 光宏 (全日制総務部長)

吉田 庄吾 (全日制教務部長) 上野山 幸司 (全日制進路指導部長) 金城 正明 (全日制生徒指導部長)

雑賀 慎哉 (学校評価委員会委員長) 岡本 邦敬 (事務長) 吉村 太一郎 (定時制教頭)

山田 泰彦 (定時制教務部長) 坂口 佳隆 (定時制進路部長) 岡本 邦孝 (定時制生徒指導部長)

【1】 開会

【2】 校長挨拶 (松本校長)

【3】 任命書の交付

【4】 委員紹介

【5】 会長及び副会長の選出

会長：田中一壽氏 副会長：村田頼信氏

【6】 議事 (議長：会長)

(1) 学校運営の基本方針の承認

基本方針の説明 (校長より)。

基本方針は昨年と同様 (今までの経緯から示されているため、大きく変更すべきでない)。

しかしながら抽象的であるので、改めて校訓である「質実剛健」について説明。

校訓に従い、魅力ある工業高校とするため、7つの科の特長を活かす。

⇒・小学生ものづくり教室

将来構想委員会が発案。

夏休み中に近隣小学生 45 名程度を募集して実施。

本校各科の生徒が指導に加わる。

・特別支援教育の充実

教育相談室に1名の増員して取り組む。

元支援学校校長を招へいして体制を整える。

- ・キャリア教育の充実

各行事での活動の意味や目的を明確にする。

特活部主導で教務部・進路指導部との連携を行う。

- ・和工ハウスプロジェクト

3年計画で各科が協力して「家」を製作する

今年度は、7月よりデザイン案を募集し、10月の和工祭で決定する。

- ・地域連携

水軒通りの整備により、避難訓練などを地域で行うことを今後計画する。

『質問・意見』

特に校長の説明にあった特別支援分野について期待している。

工業高校なので、入学してみて学科の不応を感じて生徒もいるのか。(委員)

問題行動が増えているという話があったが、中学校ではできる限り「成功体験」を積ませるなどして善悪の判断ができるようにしなければならないと考えている。

車いすの修理の新聞記事を見たが、地域の人に喜んでもらえる良い取組である。(委員)

生徒に輝く喜びや授業が分かる喜びを実感させるには、特別支援教育の充実は大切である。

目的意識を持たせることが大切であり、いい学校経営方針だと思う。(委員)

スクールポリシーの記載について、学校経営方針には検定の取得などを明記している科があるので、そのような部分について加筆すべき。(委員)

⇒今後学校側で調整

これまで本校のことを知るにあたり、各科が独立していると感じていた。

和工ハウスプロジェクトのように1つのものを皆で造る提案はいいことだと思う。

SDG s について、学校で何か取り組んでいけば、聞かせて欲しい。(委員)

全日制ハウスプロジェクトのような試みを定時制においても計画してもらいたい。

和工ハウスプロジェクトに定時制が何かの形で参加することはできないか。(委員)

様々な角度から、ご意見を頂いたが、反対意見はなく、今年度の学校運営の基本方針として承認された。

(2) 学校の状況

全日制

生徒指導について 指導件数 53 件(昨年度)

内容としては、無断免許取得、迷惑行為、喫煙、いじめ問題などがある。

進路指導について 就職 199 名 進学 173 名(昨年度)

3年前までは、就職割合が 70%程度であったものから、昨年は就職と進学が約半分々々程度に変化してきている。コロナ禍が関係しているかもしれない。進学については、国公立こそ無

かったが、大学進学が増えた。

部活動について

多数インターハイ・近畿大会に出場を決定した。(資料有)

定時制

多様な生徒が在籍しており、支援を必要とする生徒が多い。

中学時に不登校を経験した生徒が多く、支援を要する生徒が多い。

そのため、生徒支援委員会を設立し、市民図書館への見学などを行っている。

中学校からの「つなぎあいシート」を活用しながら指導を行っている。

令和3年度の卒業生の中には6名の進学者があった。希望を持たせられれば、もっと深く学びたいと考える生徒も多い。

学び直しにも力を入れていきたい。

『質問・意見』

定時制の生徒支援委員会の成果を全日制にも提供してもらいたい。(委員)

クラブ活動で生徒が活躍し、「和歌山工業高校」の名前が出ると、生徒にも母校愛が生まれる。

11月には、和歌山文化月間もあるので、文化系クラブも応援してもらいたい。

進路について、国公立が少ないのは大学入学共通テストの問題か。大学進学に向けた学校としてのサポートはあるか。(委員)

⇒ 昨年度は、大学入学共通テストを受けて大学受験した生徒がいたが、合格しなかった。

大学入学共通テストへの対応は、模試の提供程度。

進学は、指定校推薦が多く、小論文やプレゼンテーション、面接の指導が中心。

和工としては、進学を増やしたいのか、就職を増やしたいのか。(委員)

生徒のニーズに応じて、公務員もすすめてあげてほしい。(委員)

定時制では、同じ学ぶ時間を共有する仲間として、専科生にいろいろと協力を仰げないか。(委員)

⇒ 実際、クラスメイトとして、論したり、教えたりしてくれることがある。

(3) 次回の協議題について

生徒の話を聞く機会をもって欲しい。

学校行事を見学する機会を設けて欲しい。

図書館を見学したい。

教師の技能・技術力を高める取り組みについて話を聞きたい。などの希望があった。

【7】 今後の会議日程について

資料に綴じている調査表を7月末までにご提出いただき、日程調整をさせていただくこととした。

【8】 閉会